

あおぞら

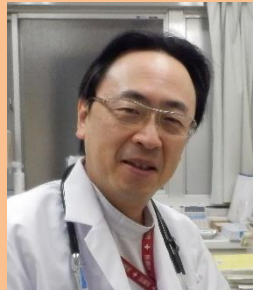
2015 vol.156 4月号

医療法人社団七仁会 田園調布中央病院

広報誌

特集

※デング熱について



氏名

石田 順朗

役職

副院長・総合診療科部長

専門領域

一般内科

TOPICS 「健診」と「検診」はどう違う？

第22回 公開医療講座開催のご案内

診療科目

内科 (一般・リウマチ・膠原病・呼吸器・消化器)

外科 (一般・消化器・呼吸器外科・肛門 内視鏡外科)

整形外科 (一般・骨折・各関節痛・ひざ・骨粗鬆症)

眼科 (一般・白内障・網膜剥離・緑内障)

泌尿器科・循環器内科・皮膚科・疼痛外来・乳腺外科

形成外科・脳神経外科

予防接種(肺炎球菌・インフルエンザ・MR・麻疹・風疹・

破傷風・おたふく風邪・肝炎)※対象 15 歳以上

ウエルネス外来(要予約)※自由診療

受付時間

【午前】8:00~12:00 【午後】8:00~16:30

診療開始

【午前】9:00~ 【午後】14:00~

◆診療科により受付・診察時間が異なる場合がございます。詳細につきましてはお電話、受付までお問い合わせ下さい。

面会時間

11:00~20:00

(面会時間は他の患者さまにご迷惑のかからないようお守り下さい。)

医療法人社団七仁会田園調布中央病院

〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-43-1 TEL:03(3721)7121

発行:田園調布中央病院 広報委員会



昨年は日本国内でのデング熱の流行が大きなニュースとなりました。デング熱は熱帯、亜熱帯地域の全域で流行しており、東南アジア、南アジア、中南米などで患者発生の報告が多くあります。昨年以前にも、海外で感染し日本に帰国してから発症する人は例年200名前後報告されていました。しかし日本国内で蚊を介して感染が拡大したことが確認されたのは60数年ぶり、感染拡大の場となった公園などが閉鎖される事態となりました。昨年、国内で感染の報告があった事例は160名です。デング熱と診断されずに自然治癒していた場合を含めると、実際の感染者数はさらに多かった可能性があります。昨年の流行を踏まえて、今年は積極的に検査が行われるようになり、昨年以上に感染事例が報告されるかもしれません。

デング熱について知っておくと役立つ事柄を以下にまとめました。

(病原体) デング熱ウィルスは細菌ではありません。抗生物質は無効です。

(感染経路) ウィルスを持つ蚊に刺されることによって感染する病気です。蚊を媒介することなく人から人に直接感染することはありません。デング熱を媒介する蚊はネッタイシマカとヒトスジシマカの2種です。このうちネッタイシマカは日本国内に生息していません。ヒトスジシマカは秋田県、岩手県以南の日本のほとんどの地域に分布しています。

(発生しやすい時期) 日本でのヒトスジシマカの活動時期は5月中旬から10月下旬です。

(症状) 突然の高熱で発症し、発疹、頭痛（目の奥が痛くなる場合が多い）、骨関節痛、嘔気・嘔吐などの症状が起こります。発疹は解熱時期にでることが多く、皮膚の紅潮や点状出血など多彩です。通常は1週間程度で自然に治癒します。まれに重症化して出血症状を呈し、致死性となる場合があります（デング出血熱）。この場合は熱が下がり始めたころに悪くなってくることが多いとされます。

(受診を要する場合)

蚊に刺されて3~7日程度で突然高熱がでた場合、デング熱の可能性がります。**デング熱の重症化はまれです。また発症してもすぐには重症化しません。**落ち着いて日中の外来を受診してください。まれに起こる重症化の徴候は以下の通りです。熱が下がり始めたころに一致して、激しい腹痛・嘔吐が続く、出血傾向（鼻出血、歯肉出血、血を吐く、黒い便がでる）やショック徴候（意識朦朧、顔面蒼白、呼吸困難、冷汗、脈拍微弱）が認められる。このような場合には是非とも救急車を要請してください。

(検査) **当院を含めた一般の病院では「デング熱かどうかを確認する検査」はできません。**

一般の医療機関では問診と診察が行われ、デング熱が疑われる症状や血小板減少などが認められる場合は、所轄の保健所に連絡し、行政の責任の下で各自治体の地方衛生研究所などで確認のための検査が行われます。

(予防) デング熱に対するワクチンはありません。

(治療) デング熱ウィルス自体に有効な薬剤はなく、免疫力によりウィルスが排除されるまでの間、対症療法を行います。解熱剤としては出血を助長しないアセトアミノフェンが使用されます。

(潜伏期間、有症状期間)

潜伏期間 2~15日（多くは3~7日） 有症状期間 約1週間

(感染予防策) 蚊に刺されないようにすることが唯一の予防法です。長袖、長ズボンの着用が推奨されます。ヒトスジシマカの幼虫（ボウフラ）は、ベランダにある植木鉢の受け皿や空き缶、ペットボトルにたまった水、放置されたブルーシートや古タイヤに溜まった水に発生しますので、不要な物品は撤去し、掃除を励行してください。

蚊が媒介する感染症として日本で発生、あるいは持ち込まれる可能性の高い疾患としては、デング熱のほか、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎、マラリアが挙げられます。交通網の発達や地球温暖化の影響で、今後は日本国内でも感染予防の観点から蚊に対する対策を強化する必要があると思われます。

詳しくは下記をご参照ください。厚生労働省 デング熱に関する Q&A

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever_qa.html



「健診」と「検診」はどう違う？

皆さんは年に一度、必ず健康診断を受けていますか？もしくは積極的に検診を受けて、自分の体が癌などの病に侵されていないかをチェックしているでしょうか。

健康診断であれば、会社に勤めていたり学校に通っていたりすれば自然に受診する機会が訪れるのですが、検診の場合は何かの病気の自覚症状が表れたりしなければ、なかなか受けるチャンスが無いものです。

●健診とは大まかな健康状態を調べる事です。

健診や健康診査とも呼ばれている健康診断は、受診者の健康状態を大まかに調べるために行われるもので、検査項目は、身長・体重・視力・聴力・血圧など短時間で比較的簡単にできるものばかりです。

これらの測定で分かることは主に発育状態や肥満度などですが、隠れている病気を特定する事まではできません。しかし障害が起こっている臓器をある程度は絞り込むことができるため、病気発見の手掛かりになります。

なお健康診断は、個人の意思に関わらず必ず行わなければならないもの（法定健診）と、個人の意思で自由に受けることのできるもの（任意健診）の2つに大別されます。



●検診とは特定の病気を調べる事です。

検診とは、ある特定の病気を見つけるために行われる検査のことです。検診といえばがん検診という誰もが抱くイメージの通り、癌の発見のために行われるものが大半を占めています。

がん検診は主に保健所や病院などで実施されており、受けるためには予約や申し込みが必要ですが、受診するか否かについては、個人の自由であり強制ではありません。



【がん検診はコース分けされています】

癌は体のさまざまな場所に悪性の腫瘍ができる病気です。

そのためがん検診は、癌がどこの臓器に発生したかによって胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診といった風にコース分けがされています。

また、女性のみがかかり得る癌（乳がんや子宮がん）専用のコースや、男性のみがかかり得る癌（前立腺がん等）専用のコースも設けている場合も多く、それぞれの目的に合わせて選ぶことができます。

*** 7月から大田区のがん検診が始まります。**
それに伴って6月23日に野村證券田園調布支店にて公開講座を行います。
テーマは『検診でのマンモグラフィ』です。皆さん是非参加してください。



いつまでも心身共に生き生きと元気に過ごすためには、一人ひとりにあった安全かつ効果的な運動を行うことが必要です。健康づくりの専門家を講師に迎え、ご家庭でも簡単にできる体操の方法を紹介いたします。充実した毎日を過ごすために、健康寿命を延ばしましょう。

TMG Toda
Medical Group

田園調布中央病院 公開医療講座 第22回 2015

目指せ健康長寿！ 体力維持に効果的な運動とは

参加無料

平成27年4月28日(火)
10:00 ~ 11:00

講師 医療法人横浜柏堤会 戸塚共立健康支援室
健康運動指導士 宇津野 文菜
濱 絢菜



会場 野村證券 田園調布支店 ラウンジ

〒145-0071 東京都大田区田園調布2-62-3 TEL 03-5483-2011 (代表)

定員 20名

※「メゾンカイザー東急スクエアガーデンサイト店」さんの隣に
田園調布支店直通のエレベーターがございますのでご利用ください。

お申し込み・お問い合わせ

☎ 03-3721-7121 (代表)

田園調布中央病院 総務課 中井

電話受付時間：平日 9:00 ~ 16:30

土曜日 9:00 ~ 12:00

